

○総務省訓令第16号

総務省政策評価基本計画を次のように定める。

令和5年3月28日

総務大臣 松本 剛明

総務省政策評価基本計画

目次

- 第1章 総則
- 第2章 政策評価の実施に関する方針
 - 第1節 政策評価の実施に関する基本的な考え方
 - 第2節 政策評価の方式
- 第3章 政策評価の観点に関する事項
- 第4章 政策の効果の把握に関する事項
- 第5章 事前評価の実施に関する事項
 - 第1節 基本的考え方
 - 第2節 事前評価において使用する評価方式の基本的な適用の考え方その他事前評価の取組方針
- 第6章 計画期間内において事後評価の対象としようとする政策その他事後評価の実施等に関する事項
 - 第1節 基本的考え方
 - 第2節 事後評価において使用する評価方式の基本的な適用の考え方その他事後評価の取組方針
- 第7章 学識経験を有する者の知見の活用に関する事項
- 第8章 政策評価の結果の政策への反映に関する事項
 - 第1節 基本的考え方
 - 第2節 具体的な仕組み
- 第9章 政策評価等に関する情報の公表に関する事項
 - 第1節 基本的考え方
 - 第2節 具体的方法
- 第10章 政策評価の実施体制に関する事項
 - 第1節 実施体制
 - 第2節 国民の意見・要望を受け付けるための窓口の整備
 - 第3節 地方公共団体との連携・協力
- 第11章 その他政策評価の実施に関し必要な事項

第1章 総則

1 目的

この計画は、行政機関が行う政策の評価に関する法律（平成13年法律第86号。以下「法」という。）第6条及び「政策評価に関する基本方針」（平成17年12月16日閣議決定。以下「基本方針」という。）に基づき、政策評価を総務省（公害等調整委員会を除く。以下同じ。）の政策の意思決定過程に活用し、政策のマネジメント・サイクルの中に制度化されたシステムとして明確に組み込むことにより、その適切な実施を図ることを目的とする。

2 計画期間

この計画の対象期間（以下「計画期間」という。）は、令和5年度から令和9年度までの5年間とする。

第2章 政策評価の実施に関する方針

第1節 政策評価の実施に関する基本的な考え方

1 総務省の政策評価について、有効性の観点からの評価を一層重視し、政策の進捗状況や政策効果の把握・分析に積極的に取り組むことにより得られた情報を意思決定過程において活用することを推進し、機動的かつ柔軟な政策展開を図る。

その際、政策評価を活用して、更なるリソース（予算等の行政資源）の確保や前向きな軌道修正等を積極的に行うことを推奨する。

また、国民に対する行政の説明責任の徹底を図ることにより、国民本位の効率的で質の高い行政及び国民的視点に立った成果重視の行政を実現する。

2 総務省の担う広範な行政分野において、政策評価を実施することにより前項に記載する効果を上げるには、関連する政策目的と手段の整合性を確保することが必要である。

このため、総務省の主要な政策（法第6条第3項に規定する政策をいう。以下同じ。）について行政分野ごとに整理し、当該政策の目的をどのような取組（手段）をもって達成しようとするのかという関係をあらかじめ明らかにした上で、政策評価を実施する。政策が、複数行政機関に関係する政策と関連する場合は、当該複数行政機関に関係する政策との関係をあらかじめ明らかにするよう努める。

また、総務省におけるそれぞれの政策の特性等に応じた効果的な取組を政策評価の重点化・効率化を図りながら進める。

なお、国民的視点に立った成果重視の行政を実現するためには、政策の目標は当該政策が実現を目指す成果（アウトカム）、すなわち、政策の実施により社会等が変化し、結果として国民にどのような便益がもたらされたかを表すものであることが重要である。

3 以上を踏まえ、政策評価を通じて、政策の企画立案を担当する職員は、国民等の施策の対象者の視点に立った政策立案能力の向上に取り組む。

第2節 政策評価の方式

政策評価を行うに当たっては、政策の特性等に応じて、基本方針に定める「実績評価方式」、「事業評価方式」又は「総合評価方式」その他政策の特性に応じた評価方式を用いる。その際、「政策評価の実施に関するガイドライン」（平成17年12月16日政策評価各府省連絡会議了承）が定める各方式の具体的内容及び評価に当たっての留意点を踏まえるものとする。

また、政策の意思決定過程における政策評価の活用を推進するため、政策評価の実施状況を踏まえて、必要に応じ評価方式の見直しを行う。

第3章 政策評価の観点に関する事項

総務省の政策評価は、評価の対象を重点化し、政策の特性に応じて以下の観点を選択・具体化することとし、特に有効性の観点からの評価を一層重視しつつ、総合的に行う。

政策評価の観点としては、法第3条第1項に明示されたものとして、

- ① 必要性：政策の効果からみて、対象とする政策に係る行政目的が国民や社会のニーズ又はより上位の行政目的に照らして妥当性を有しているか、行政関与の在り方からみて当該政策を行政が担う必要があるか
- ② 効率性：投入された資源量に見合った結果が得られるか、又は実際に得られているか、他に効率的な方法がないか
- ③ 有効性：政策の実施により、期待される効果が得られるか、又は実際に得られているか

がある。

上記のほか、

- ④ 公平性：行政目的に照らして政策の効果や費用の負担が公平に分配されるものとなっているか、又は実際に分配されているか
- ⑤ 優先性：以上の観点からの政策評価を踏まえて当該政策を他の政策よりも優先すべきか

を政策の特性に応じて選択して用いる。

第4章 政策の効果の把握に関する事項

1 政策の効果の把握の方法

政策の効果の把握に当たっては、政策の進捗状況をより正確に把握し、対象とする政策の特性に応じた、適用可能であり、かつ、政策の効果の把握に要するコスト、得られる結果の分析精度等を考慮した適切な手法を用いる。

その際、政策の改善等に有益な情報を特定し、それを指標として適切に設定するために、企画立案段階から効果の把握手法を検討するとともに、政策に期待する効果の発現経路を明確にするよう努める。

政策効果を把握する手法は、できる限り定量的に把握することができる手法を用いるものとし、その際、政策目的の実現に資する情報を得るという目的を果たせるよう、指標の設定・測定が目的化しないよう留意するものとする。また、当該政策の推進にとって定性的に把握する手法が合理的であると考えられる場合は、これによる代替や併用についても検討するものとする。

なお、簡易なものであっても、その有用性が認められているものであれば当該手法を適用し、効果把握・分析の過程を通じ知見を蓄積していくことにより当該効果把握・分析の質の向上を図っていく等の取組を進めていくものとする。

2 政策の効果の把握に当たっての留意点

政策の所管部局等は、当該政策に基づく活動の実施過程等を通じて政策の効果の把握に必要な情報が効果的・効率的に入手できるよう、また、情報収集等により相手方に過大な負担をかけることがないよう、その収集・報告の方法等についてあらかじめ配慮する。

第5章 事前評価の実施に関する事項

第1節 基本的考え方

1 事前評価は、政策やその実施手段の企画立案等に当たり、当該政策に基づく活動により得られると見込まれる政策の効果を基礎としての確な政策の採択や実施の可否を検討し、又は複数の代替案の中から適切な政策を選択する上で有用な情報を提供する見地から、今後の課題及び取組方針等の検討と併せて行う。

2 事前評価については、政策の効果が発現した段階において事後評価によってその結果の妥当性を検証すること等により得られた知見を以後の事前評価にフィードバックする取組を進めていく。

第2節 事前評価において使用する評価方式の基本的な適用の考え方その他事前評価の取組方針

1 基準とする評価方式

基準とする評価方式は、事業評価方式とする。

2 事前評価の対象政策

(1) 事前評価の対象政策は、以下のいずれかに該当するものとする。

① 法第9条の規定に基づき事前評価の実施が義務付けられた政策

② 省令又は告示の制定又は改廃により、規制を新設し、若しくは廃止し、又は規制の内容の変更をすることを目的とする政策（大臣官房政策評価広報課長が

別に定めるものに限る。)

③ その他事前の検証が必要と認められる政策

- (2) 事前評価は、法、基本方針及びこの計画で定めるところによるほか、研究開発を対象とする評価については「国の研究開発評価に関する大綱的指針」(平成28年12月21日内閣総理大臣決定)等を、規制に係る評価については「規制の政策評価の実施に関するガイドライン」(平成19年8月24日政策評価各府省連絡会議了承)を、租税特別措置等(国税における租税特別措置及び地方税における税負担軽減措置等をいう。以下同じ。)を対象とする評価については「租税特別措置等に係る政策評価の実施に関するガイドライン」(平成22年5月28日政策評価各府省連絡会議了承)をそれぞれ踏まえて行う。

第6章 計画期間内において事後評価の対象としようとする政策その他事後評価の実施等に関する事項

第1節 基本的考え方

- 1 事後評価は、総務省の主要な政策についてその状況を国民に明らかにするとともに、政策の決定後において、政策の効果を把握し、これを基礎として、政策の見直し・改善、新たな政策やその実施手段の企画立案及びそれに基づく実施に反映させるための情報を提供する見地から、今後の課題及び取組方針等の検討と併せて行う。
- 2 事後評価は、社会経済情勢の変化や政策効果の発現状況等を勘案し、適切なタイミングで行うものとする。

第2節 事後評価において使用する評価方式の基本的な適用の考え方その他事後評価の取組方針

1 基準とする評価方式

基準とする評価方式は、実績評価方式、事業評価方式及び総合評価方式その他政策の特性に応じた評価方式とする。

2 事後評価の対象政策

- (1) 予算・決算との連携の要請を踏まえて整理した以下に掲げる総務省の主要な政策については、計画期間内において、実績評価方式、総合評価方式その他政策の特性に応じた評価方式により政策評価を実施する。当該政策評価に当たっては、企画立案作業時に行った評価の内容が記載された審議会等の審議資料や答申、計画のフォローアップ、予算編成プロセスで活用される行政事業レビューシート(「行政事業レビューの実施等について」(平成25年4月5日閣議決定)に基づく行政事業レビューの取組において作成されるものをいう。)等の評価関連作業において作成した資料を活用し、又は当該資料を評価書として代替することができる。

ア 行政改革・行政運営

- ① 適正な行政管理の実施
- ② 行政評価等による行政制度・運営の改善

イ 地方行財政

- ① 分権型社会にふさわしい地方行政体制整備等
- ② 地域振興(地域力創造)
- ③ 地方財源の確保と地方財政の健全化
- ④ 分権型社会を担う地方税制度の構築

ウ 選挙制度等

選挙制度等の適切な運用

エ 電子自治体

電子自治体の推進

オ 情報通信（ICT政策）

- ① 情報通信技術の研究開発・標準化の推進
- ② 情報通信技術高度利活用の推進
- ③ 放送分野における利用環境の整備
- ④ 情報通信技術利用環境の整備
- ⑤ 電波利用料財源による電波監視等の実施
- ⑥ ICT分野における国際戦略の推進

カ 郵政行政

郵政行政の推進

キ 国民生活と安心・安全

- ① 一般戦災死没者追悼等の事業の推進
- ② 恩給行政の推進
- ③ 公的統計の体系的な整備・提供
- ④ 消防防災体制の充実強化

(2) 上記(1)のほか、事後評価の対象政策は、以下のいずれかに該当するものとし、計画期間内において、事業評価方式その他政策の特性に応じた評価方式により政策評価を実施する。

- ① 事前評価を実施した政策であって、事後の検証が必要と認められるもの
- ② その他事後の検証が必要と認められる政策

(3) 事後評価は、法、基本方針及びこの計画で定めるところによるほか、研究開発を対象とする評価については「国の研究開発評価に関する大綱的指針」等を、規制に係る評価については「規制の政策評価の実施に関するガイドライン」を、租税特別措置等を対象とする評価については「租税特別措置等に係る政策評価の実施に関するガイドライン」を、それぞれ踏まえて行う。

3 総務省の主要な政策の評価の方法

総務省の主要な政策の評価に当たっては、政策の特性等に応じて評価方式を選択することを基本とする。あらかじめ当該政策の目的及びその下で達成すべき施策目標を明らかにすることが適当なものについては、その達成度合いを測るための目標（値）を設定した指標を設定・公表し、それらの達成度合いを検証する。当該指標の設定に当たって前提とした事情が大きく変化したこと等により、これらを変更せずに評価することが適当ではないと認められる場合にあっては、速やかにこれらの見直しを行い、その結果を公表する。

4 実施計画

法第7条に規定する実施計画（以下「実施計画」という。）は、各年度における事後評価の対象とする政策及び当該政策ごとの具体的な事後評価の方法について定めるものとし、当該評価を実施する年度当初に策定し、公表する。

第7章 学識経験を有する者の知見の活用に関する事項

政策評価は、政策の意思決定過程において、広範な視点からできる限り客観的なものとして実施されることを確保することにより次の政策にいかされ、政策の質を高めることに意義がある。したがって、政策評価の実施に当たっては、政策評価制度、評価対象政策等について専門的知識を有する学識経験者や実践的知識を有する者等（以下「学識経験者等」という。）の協力を得ることが重要である。

具体的には、意思決定過程における政策評価の活用を推進する観点に留意しつつ、総務省の政策評価の在り方、また、主要な政策における政策目的と手段のつながりの確認、政策効果の把握・分析、適切な指標の検討、政策評価結果の取りまとめ等様々な段階において、学識経験者等から意見を聴取するなどにより積極的にその知見を活用する。

第8章 政策評価の結果の政策への反映に関する事項

第1節 基本的考え方

政策の所管部局等及び当該政策の査定を担当する大臣官房各課の長は、政策評価を行う政策の担当職員が当該政策を更に推進するために行う前向きな軌道修正や創意工夫等を積極的に支援し、政策評価の質の向上に努めるとともに、政策評価の結果を政策の企画立案作業（予算要求、機構・定員要求、税制改正要望、法令等による制度の新設・改廃等をいう。以下同じ。）における重要な情報として適時的確に活用し、当該政策に適切に反映する。

第2節 具体的な仕組み

1 大臣官房各課への情報提供

政策の所管部局等は、当該政策の査定を担当する大臣官房各課が政策評価結果を政策の企画立案作業に活用できるよう、評価結果を速やかに関係する大臣官房各課に提出するとともに評価過程における情報を必要に応じて提供する。

2 大臣官房政策評価広報課への反映状況の報告

政策の所管部局等は、政策評価を実施した政策について、その評価結果の政策への反映状況を大臣官房政策評価広報課に報告する。

3 反映状況の公表

大臣官房政策評価広報課は、上記2により報告を受けた内容を速やかに取りまとめ、法第11条に基づく政策評価の結果の政策への反映状況（以下「政策への反映状況」という。）として、総務大臣（行政評価局）に通知するとともに、国民に分かりやすい形で公表する。

第9章 政策評価等に関する情報の公表に関する事項

第1節 基本的考え方

1 評価書においては、政策評価の結果の外部からの検証を可能とすることの重要性を踏まえ、法第10条第1項各号に掲げられている事項について可能な限り具体的かつ明確に記載し、その際、評価結果の政策への反映の方向性を明らかにするものとする。なお、評価の際に使用したデータ、仮定、外部要因等についても明らかにするものとする。

評価書の要旨を作成する場合には、評価書の主な内容を簡潔に記述することにより政策評価の結果を分かりやすく示すものとするよう留意する。なお、評価書が既に簡潔で分かりやすいものとなっている場合には、当該評価書を要旨と兼ねるものとすることができる。

2 政策への反映状況の公表は、政策評価の結果及び当該結果に基づく措置状況（内容、時期、今後の予定等）を分かりやすくかつ具体的に記載したものにより行う。

3 評価書及びその要旨等の公表に当たっては、公表することにより国及び公共の安全を害する情報や個人のプライバシー、企業秘密に関する情報等の取扱いに関し、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成11年法律第42号）の考え方に基づき適切に対応する。

第2節 具体的方法

評価書等の公表は、総務省ホームページへの掲載等国民が容易に入手できるよう、適切な方法により行う。

第10章 政策評価の実施体制に関する事項

第1節 実施体制

1 基本的考え方

政策の意思決定過程において政策評価の客観的かつ厳格な実施を確保するため、大臣、副大臣及び大臣政務官の指示の下、大臣官房政策評価広報課と政策の所管部局等が適切に役割を分担し、組織として一体的な政策評価への取組を可能とする体制を以下のとおり整備する。

また、この体制を効果的・効率的に機能させていくため、大臣官房政策評価広報課と政策の所管部局等は評価能力の向上に積極的に取り組む。

2 実施体制及び大臣官房政策評価広報課の果たす役割

(1) 政策の所管部局等と大臣官房政策評価広報課の役割

政策の所管部局等と大臣官房政策評価広報課の役割分担は次のとおりとする。

また、大臣、副大臣及び大臣政務官の指示の下、その進捗状況等について、政策の所管部局等と大臣官房政策評価広報課が連携して、適時に大臣、副大臣及び大臣政務官へ報告する。

① 実績評価方式又は事業評価方式による評価については、政策の所管部局等が行い、必要に応じ大臣官房政策評価広報課は、政策の所管部局等間の調整等を行う。

② 総合評価方式による評価については、大臣官房政策評価広報課又は政策の所管部局等が行い、必要に応じ大臣官房政策評価広報課は、政策の所管部局等間の調整等を行う。

③ 大臣官房政策評価広報課は、上記①及び②のほか、法第6条に規定する基本計画及び実施計画の策定、省全体の評価書等の取りまとめ及び公表等政策評価の総括を行うとともに、政策の所管部局等における政策評価への取組を支援及び指導・助言する。

また、大臣官房政策評価広報課は、評価書等を取りまとめ、公表するに当たり、この計画及び実施計画に定めるところに沿って政策評価が行われているかを検証し、他の政策との整合性はとれているか、利用可能な評価手法が適切に利用されているか、分析のための指標・数値等が適切か、客観性は担保されているか、国民に分かりやすいものとなっているかに重点をおいて政策の所管部局等から提出を受けた資料等を審査する。

(2) 法第15条の規定による資料の提出の要求及び調査等への対応

法第15条の規定による資料の提出の要求及び調査等の求めを受けた場合には、政策の所管部局等と大臣官房政策評価広報課は協議を行い、これに対応する。

(3) 政策評価の実施に関する省内連絡会

政策評価を円滑に実施するため、省内に「政策評価の実施に関する省内連絡会」（以下「連絡会」という。）を置くこととし、その庶務は大臣官房政策評価広報課において処理する。

連絡会においては、政策の所管部局等と大臣官房政策評価広報課との連絡調整を必要に応じて行う。

第2節 国民の意見・要望を受け付けるための窓口の整備

政策評価に関する外部からの意見・要望を受け付けるための窓口は、大臣官房政策評価広報課とし、総務省ホームページ等を活用して積極的な周知を図る。また、寄せられた意見・要望については、関係する部局等において適切に活用する。

第3節 地方公共団体との連携・協力

政策評価の実施に当たっては、国と地方公共団体は、適切な役割分担の下で相互に協力する関係に立って共に行政活動を行い、それぞれ自らの行政活動の効果を把握し政策評価を行うものであることを踏まえ、評価の対象とする政策の特性等に応じて、政策評価の客観的かつ厳格な実施の確保に関し必要な情報や意見の交換を行い、地方公共団体との適切な連携・協力を図る。

第11章 その他政策評価の実施に関し必要な事項

- 1 この計画に定める事務の実施に必要な事項は、大臣官房政策評価広報課長が別に定める。
- 2 この計画期間を政策評価における試行的取組の期間と位置付け、新たな政策評価手法の導入や意思決定過程における活用方法等の試行的な取組等を推進するとともに、法又は基本方針の見直し、政策の効果の把握の手法その他政策評価の方法に関する調査、研究及び開発の成果や動向、当該試行的な取組の状況等を踏まえ、必要に応じ所要の見直しを行う。

附 則（令和5年3月28日総務省訓令第16号）

- 1 この訓令は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 この計画の施行後三年を経過した場合においてこの計画の施行状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附 則（令和8年3月27日総務省訓令第15号）

この訓令は、令和8年4月1日から施行する。